九州大学超顕微解析研究センター（旧超高圧電子顕微鏡室）の沿革

1971(S46)年　3月　超高圧電子顕微鏡設置準備委員会設置（委員長 日高 醇 農学部教授：植物病理学、副委員長 江口鉄男工学部教授：金属物性学）

超高圧電子顕微鏡設置準備専門委員会設置（委員長 北島貞吉 工学部教授：物理冶金・金属塑性学）

1971(S46)年　5月　文部省 47 年度概算要求（設置実現せず）

1972(S47)年　5月　文部省 48 年度概算要求（設置実現せず）

1973(S48)年　5月　文部省 49 年度概算要求

1974(S49)年　1月　文部省から 超高圧電子顕微鏡設置の予算示達(49.50 年度予算)

1975(S50)年　4月　学内共同利用施設「九州大学超高圧電子顕微鏡室」発足（室長　江口鉄男工学部教授）

1975(S50)年　7月　第 1 回 HVEM 研究会　開催　講師：永山在明（歯学部)、二神光次（応用力学研究所）

1975(S50)年 10月　真鍋武志　技能職員着任

1975(S50)年 12月　超高圧電子顕微鏡棟竣工（箱崎キャンパス、工学部地区　3 号館中庭 2 階建　延べ 640m^2）

1976(S51)年　3月　超高圧電子顕微鏡 JEM-1000 設置

1976(S51)年　7月　第 1 回利用者講習会（医学・生物系 9 名、非生物系 1 名）

第 2 回利用者講習会（物質・材料系 10 名）

1976(S51)年 10月　超高圧電子顕微鏡共同利用業務開始

11月　田中鍠士　技術職員　工学部冶金系学科より配置換・着任

1977(S52)年　3月　補助電子顕微鏡 JEM-200（後の 200BS）設置（概算要求）

1977(S52)年　5月　超高圧電顕室研究報告　No.1, 1977 発刊

1977(S52)年　6月　友清芳二専任講師着任（学内運用ポスト：工学部冶金系学科から）

1979(S54)年　3月　江口鉄男室長退任（総理工へ配置換のため）

1979(S54)年　4月　北島貞吉室長就任（工学部応用原子核工学科教授）

1983(S58)年　3月　分析電子顕微鏡 JEM-200CXS(後の 2000FX)設置（概算要求）

1986(S61)年　8月　創立 10 周年記念シンポジウム（九大工学部）

1987(S62)年　3月　超高圧電子顕微鏡改造(加速管)

1987(S62)年 11月　部屋の増改築：１階のドラフト付き試料準備室を２階の新しい部屋へ移設、400kV 電子顕微鏡設置のために床下に除振架台設置

12月　原子直視型高分解能電子顕微鏡 JEM-4000EX 設置（概算要求）

1988(S63)年　3月　超高圧電子顕微鏡改造（高分解能化）

1989(H01)年　3月　北島貞吉室長退任（停年退官のため）

1989(H01)年　4月　根本實室長就任（工学部材料工学科教授）

1989(H01)年　5月　超高圧電子顕微鏡改造記念講演会　（九大国際ホール）

1993(H05)年　3月　汎用電子顕微鏡として JEM-200CX を歯学部より移管

1995(H07)年　3月　超高圧電顕フロンガス対策（高電圧タンク容器交換、代替ガス SF_6 液化回収装置設置）高圧ガス製造所としての認可を受ける

他の電子顕微鏡も SF_6 ガスに置き換え

1995(H07)年　3月　根本實室長退任

1995(H07)年　4月　木下智見室長就任（工学部応用原子核工学科教授）

1996(H08)年　3月　ナノプローブ電子分光型電子顕微鏡 JEM-2010FEF 設置（補正予算）
集束ガリウムイオンビーム（FIB）試料加工装置 FB2000 設置（補正予算）

1997(H09)年　3月　アジア学術セミナー（日本学術振興会と超高圧電子顕微鏡室の共催）

1997(H09)年　4月　プログラム・プロジェクト（略称 P&P）スタート、超高圧電子顕微鏡室から応募した課題が採択される

1997(H09)年 12月　友清芳二専任助教授工学部教授へ転出

1998(H10)年　4月　渡辺万三志専任助教授着任

2000(H12)年　3月　超高圧電子顕微鏡 JEM-1000 の加速管交換

2001(H13)年　3月　渡辺万三志専任助教授退職（米国 Lehigh 大学へ）

2001(H13)年　4月　金子賢治専任助教授着任
学内リサーチコア制度スタート　超高圧電子顕微鏡室の利用者集団による「超顕微科学リサーチコア」が採択される

2001(H13)年 10月　デジタル電子顕微鏡 TECNAI-20　導入

2002(H14)年　3月　学内運用助教授ポスト解消（1977 年度から学内運用されてきた助教授ポストがなくなり超高圧電子顕微鏡室に専任教員がいなくなる）

2002(H14)年　4月　金子賢治専任助教授配置換（工学研究院材料工学部門へ）
文科省ナノテクノロジー総合支援事業(2002-2006)「超顕微解析支援」受託

2003(H15)年　3月　３次元観察用電子分光型電顕 JEM-3200FSK 設置（総長裁量経費）

2003(H15)年　3月　ローレンツ電顕 TECNAI-F20 設置（文科省ナノテク支援事業経費）

2003(H15)年 12月　文科省より新超高圧電子顕微鏡設置予算内示（新キャンパスに設置）

2004(H16)年　3月　木下智見室長退任（停年退官のため）

2004(H16)年　4月　法人化にともない、運営委員会において「超高圧電子顕微鏡室の中期目標・計画」を策定

2004(H16)年　4月　友清芳二室長就任（総理工 融合創造理工学部門教授）

2004(H16)年 12月　田中鍖士技術職員専任教員（助手）に配置換（工学部運用枠借用）

2005(H17)年　1月　大尾岳史技術職員着任

2005(H17)年　1月　伊都キャンパスに新超高圧電子顕微鏡用建物（CE20 棟）竣工

2005(H17)年　3月　新超高圧電子顕微鏡 JEM-1300 NEF 本体設置（概算要求）

2005(H17)年　3月　福岡西方沖地震発生(3/20)
箱崎地区の古い超高圧電子顕微鏡をはじめ各種電顕に甚大な被害

2005(H17)年　4月　新超高圧電子顕微鏡 付帯設備整備計画スタート（概算要求、特別設備費、5 年計画）

2005(H17)年 10月　超高圧電子顕微鏡フォーラム開設（財団法人：九州大学学術研究都市推進機構 QPACK 内に）

2006(H18)年　3月　日韓電子顕微鏡法チュートリアル・ワークショップ（伊都）

2006(H18)年　3月　友清芳二室長退任（定年退職のため）

2006(H18)年　4月　従来の「電顕講習会（機種毎に実施)」に代わって新しい「電子顕微鏡技術研修制度（入門、初級、中級コース毎に実施：学外者も受け入れ)」スタート

2006(H18)年　4月　松村晶室長就任（工学研究院　エネルギー量子工学部門教授）

2006(H18)年　9月　新超高圧電子顕微鏡設置記念国際シンポジウム開催（西新プラザ）

2007(H19)年　3月　超高圧電子顕微鏡室本館(CE21 棟)竣工（伊都地区）

2007(H19)年　3月　古い超高圧電子顕微鏡 JEM-1000 地震被害から復活（文部科学省の予算措置により、箱崎地区）

2007(H19)年　4月　文科省先端研究施設共用イノベーション創出事業「九州地区ナノテクノロジー拠点・ネットワーク(2007-2011)」受託

2007(H19)年　4月　電顕利用料金支払法変更
装置ごとに料金設定、運営費交付金以外の資金での支払可能、毎月徴収

2007(H19)年　6月　真鍋武志 技能職員退職

2007(H19)年 10月　箱崎地区から各種電子顕微鏡などの伊都地区への移設完了

2008(H20)年　3月　ナノ超構造創製・レーザービーム照射装置（超高圧電顕用）付加（概算要求）

2008(H20)年　4月　超高圧電子顕微鏡室研究プロジェクト制度スタート
（ユニークな研究に対して電顕使用料の補助）

2009(H21)年　3月　ナノ超構造創製・元素分析装置（超高圧電顕用）付加（概算要求）

2009(H21)年　9月　第 12 回 FEMMS Meeting(Sasebo)開催（実行委員長 松村晶室長）

2009(H21)年 10月　超高圧電子顕微鏡室達成度評価実施

2010(H22)年　1月　超高圧電子顕微鏡室外部評価実施

2010(H22)年　3月　集束イオンビーム試料加工装置（FEI Quanta 3D 200i）設置（目的積立金）
超伝導マイクロカロリーメーター分析 SEM （Zeiss ULTRA55 + SII-nanotechnology）設置 （補正予算）
収差補正走査透過電子顕微鏡（JEM-ARM200F）設置 （補正予算）
田中鍠士助教 定年退職

2010(H22)年　3月　新超高圧電子顕微鏡（JEM-1300NEF）レーザー偏光装置設置（受託研究費）

2010(H22)年　4月　藤昇一 助教着任（工学研究院運用枠）

2010(H22)年 10月　超伝導マイクロカロリーメーター分析 SEM 共同利用開始

2010(H22)年 12月　新超高圧電子顕微鏡（JEM-1300NEF）レーザー光偏向装置 導入

2012(H24)年　2月　アジア太平洋顕微鏡学会（APMC-10、オーストラリア パース）
超高圧電顕室関係者（松村室長、金子教授、友清特任教授）が出席
松村室長 CAPSEM 委員に選出される
原子直視型電顕（JEM-4000EX）廃棄

2012(H24)年　3月　集束イオンビーム試料加工装置にクライオシステム導入
Ar イオン研磨装置「Fischione 社製 TEM ミル (M-1050)」設置

日本金属学会にて組織写真展最優秀賞を受賞
テーマ：「JEM-ARM200F を使用した Nd-Fe-B 磁石材料の研究」
（板倉、渡辺、大尾、西田）

2012(H24)年　7 月　文科省「ナノテクノロジープラットフォーム」事業受託(2012-2021)
「微細構造解析プラットフォーム」参画 実施責任者 松村晶室長

2012(H24)年 10 月　前野宏志技術職員 着任　（2007 年に退職した真鍋技術職員の後任）

2012(H24)年 11 月　箱崎地区の超高圧電子顕微鏡 JEM-1000 で「下限数量以下の放射性同位元素」の取り扱いが可能となる

2012(H24)年 12 月　ハイコントラスト補助電子顕微鏡（JEM-2100HCKM）工学研究院から移設

2013(H25)年　1 月　Ar イオン研磨装置「Fischione 社製 NANO ミル（M-1040)」設置

2013(H25)年　3 月　薄膜 TEM 試料作製装置 イオンスライサー（EM-09100IS）設置
藤昇一助教、大尾岳史技術職員 退職

2013(H25)年　9 月　九州大学ナノテクノロジー研究支援拠点 設立
微細構造解析プラットフォームと分子・物質合成プラットフォームを統括運営

2014(H26)年　2 月　九州大学ナノテクノロジー研究支援拠点設立記念講演会 開催（伊都）

2014(H26)年　3 月　広電圧超高感度原子分解能電子顕微鏡（JEM-ARM200CF）　設置
デジタル電顕及びローレンツ電顕にレンズ式 CCD カメラ Orius を導入

2014(H26)年　4 月　「超高圧電子顕微鏡室」を改組し、「超顕微解析研究センター」として再スタート
電顕利用料金改定

2014(H26)年　8 月　SEM（Zeiss-ULTRA55）に EBSD 検出器を付加

2014(H26)年　9 月　広電圧超高感度原子分解能電子顕微鏡（JEM-ARM200CF）　共同利用開始
HC 補助電顕（JEM-2100HC）に CMOS カメラ付加（TVIPS 社 TemCam-F416）

2014(H27)年 10 月　超顕微解析研究センター開設記念講演会 開催（稲盛会館）

2015(H27)年　3 月　波多聰教授（多次元立体構造顕微解析部門）着任
CE21 棟増設工事完了、新セミナールーム/事務室 完成

2015(H27)年　4 月　村上恭和教授（環境制御顕微解析部門）着任

2015(H27)年　6 月　ナノプローブ電子分光型電子顕微鏡（JEM-2010FEF）　廃棄

2015(H27)年　9 月　ホログラフィー電子顕微鏡（HF-3300X）　設置

2015(H27)年 12 月　超高圧電子顕微鏡室開設 40 周年記念講演会 開催（西新プラザ）

2016(H28)年　2 月　箱崎地区 200 kV 系電顕の解体

2016(H28)年　3 月　箱崎地区 超高圧電子顕微鏡（JEM-1000）廃棄、お別れ会実施
精密イオンポリッシングシステム PIPS Ⅱ（Model 695）　設置
箱崎地区 超高圧電子顕微鏡室 閉鎖